

# 特定外来生物クビアカツヤカミキリの根絶を目指して

食と農の研究部 防除グループ

## ■ 調査研究の概要

クビアカツヤカミキリはサクラ類、ウメ、モモ、スモモなどバラ科樹木を加害する侵入害虫である。

本種の早期発見・対策のため、発生生態や防除対策の検討を行い、「クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書」を作成した。



## ■ 調査研究目的

「被害対策の手引書」の活用により本種の根絶に向けた取り組みに貢献する。

## ■ 調査研究の特徴

- ・ 本種の生活環と被害の特徴を解明
- ・ 府内の被害状況を調査
- ・ 防除対策を検討
- ・ 国や他の都県との連携による研究推進

## ■ 想定される用途

「被害対策の手引書」は、公園、道路、学校等の施設、山林や民有地、あるいはモモ等の果樹園の管理者が有効活用できる。

## ■ 手引書の要点①～③

### ①-1 生活環(2年1化を想定)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
成虫						野外で活動				越冬しない		
産卵						10日程度で孵化						
幼虫当年	春になると幼虫は摂食を再開											休止期
幼虫2年目	休止期					樹体内で活動						休止期
幼虫3年目			蛹	羽化	⇒成虫							

### ①-2 被害の特徴

幼虫の坑道形成とフラス(木くずや糞の混合物)の排出



### クビアカツヤカミキリ幼虫のフラスの特徴



## クビアカツヤカミキリ

- 学名: *Aromia Bungii*
- 分類: コウチュウ目 カミキリムシ科  
カミキリムシ亜科 アオカミキリ属

- 体長: 2~4cm(成虫)

- 形態的特徴:

- からだ全体が黒く光沢がある
- 頭部の下(前胸背板の一部)が赤く、とげ状の瘤(こぶ)を一对持つ



触覚の長い♂成虫、短い♀成虫

- 分布: 中国、台湾、朝鮮半島、ベトナムなど

- 寄主: バラ科樹木

- 国内では、サクラ類、ウメ、モモ、スモモ

- 食性:

- 幼虫は生きている樹木(材食性・穿孔性)
- 成虫は樹液など



幼虫は形成層付近を食害→通水組織が破壊され枯死

- 特定外来生物: 平成30年1月15日指定

## ②大阪府内の被害状況

- ・平成27年: 初確認
- ・平成29年(左図): フラス排出の有無から被害状況を調査
- ・平成30年(右図): 年次調査と市町村からの被害報告を加え作成

平成29年時点

5市1町

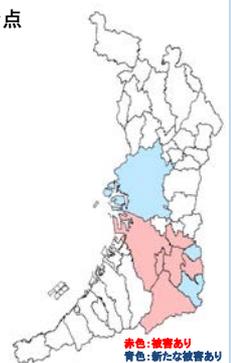
- ・大阪狭山市
- ・堺市
- ・富田林市
- ・羽曳野市
- ・河内長野市
- ・河南町



平成30年8月時点

6市2町1村

- ・大阪狭山市
- ・堺市
- ・富田林市
- ・羽曳野市
- ・河内長野市
- ・河南町
- ・太子町
- ・千早赤阪村
- ・大阪市



## ③防除対策

### 薬剤処理



フラス排出孔にノズルを差し込み、薬液を噴射して幼虫を殺虫

### ネット巻き



伐採処分できない被害木にネットを巻きつけて成虫の拡散を防止

既存農薬と異なる処理タイプの農薬の登録に向けた試験や生活環を考慮した最適な防除体系の確立を推進

# 特定外来生物クビアカツヤカミキリの根絶を目指して

○山本優一、城塚可奈子、金子修治、柴尾 学（食と農の研究部）

## 1. 目的

クビアカツヤカミキリはバラ科樹木（サクラ類、ウメ、モモ、スモモなど）を加害する海外からの侵入害虫で、大阪府内では平成 27 年に初めて被害が確認された。また、本種は平成 30 年 1 月 15 日に特定外来生物に指定された。当研究所では、本種の早期発見・対策を行うため、発生生態の調査や防除対策の検討を行い、得られた知見を「クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書」にまとめたので、その内容と現状の取り組みを紹介する。

## 2. 方法

- (1) クビアカツヤカミキリの生活環と被害の特徴の解明  
野外調査により大阪府内での加害樹種や発生時期など本種の生態を記録した。本種幼虫による加害の判別ポイントとして、加害樹木から排出するフラス（木くずや糞の混合物）の特徴を記録した。
- (2) 大阪府内でのクビアカツヤカミキリ被害の発生状況の調査  
平成 29 年に寄主植物（サクラ類など）におけるフラス排出の有無から大阪府内での被害発生状況を調査した。平成 30 年には、上記の年次調査に、市町村からの被害報告を加えた。
- (3) クビアカツヤカミキリの防除対策の検討  
既存の登録農薬を用いた被害木への薬剤処理による防除効果を確認するとともに、被害木へのネット巻きによる成虫の拡散防止効果を検討した。また、既存の登録農薬と異なる処理タイプの農薬の適用拡大に向けた試験を実施した。
- (4) 国や他の都県との連携による研究推進  
平成 30 年度から国やクビアカツヤカミキリ発生都県と共同で、本種の根絶に向けたプロジェクト「サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除法の開発」の取り組みを開始した。

## 3. 結果及び考察

- (1) クビアカツヤカミキリの生活環と被害の特徴の解明  
大阪府内では、バラ科樹木のサクラ類、ウメ、モモ、スモモで本種による被害が確認された。成虫は 6 月上旬から 8 月中旬に野外で確認された。幼虫は樹体の内部に侵入し、フラスの排出状況からみて、3 月中旬から 10 月下旬まで食害を続け、それ以外の時期は活動を休止していると推測した。本種の幼虫が排出するフラスの特徴として、①大量に排出される、②樹液と混ざってうどん状に固まる、③樹幹下部や根から排出されることが挙げられた。
- (2) 大阪府内でのクビアカツヤカミキリの被害の発生状況の調査  
平成 29 年には南河内地域を中心に 5 市 1 町で被害が確認された。平成 30 年には周辺市町村に被害が拡大し 6 市 2 町 1 村で被害が確認された。
- (3) クビアカツヤカミキリの防除対策の検討  
成虫の拡散防止対策として、薬剤処理とネット巻きの手順を整理した。農薬の適用拡大試験を完了し、試験成績を取りまとめた。
- (4) 国や他の都県との連携による研究推進  
本種の根絶に向けた上記プロジェクトでは、総合防除体系確立の一環として「化学的防除の有効な施用システムの開発」を分担し、成虫及び幼虫に有効な薬剤の選抜を開始した。